

第7回 復興計画推進会議のまとめ

1. 平成25年度復興計画推進会議の策定経過

第1回会議

9月に推進会議はスタートしました。第1回推進会議では、復興への思いと不安を整理し、会議で検討していくテーマを考えました。復興への思いとして、「未来につながるまちづくり」、「南三陸の良さを活かした復興をしたい」、「賑わいのあるまちづくり」などがあげられました。一方、不安として、「人口が減って生活サービスが低下する」などがあげられました。

第2回会議

10月に第2回推進会議をしました。2回目では1回目であげられた「人口減少」にスポットをあて、「人口減少や流出の要因や問題」について事務局の資料を基に勉強し、人口減対策の事例を調べました。

第3回会議

第3回会議では、南三陸町の人口減少や流出対策として「一度出た人もまた帰りたい」、初めてくる人も「また来たい」という視点から、町の「魅力」を考え、マップをつくりました。

第4回会議

第4回会議では、第3回であげた魅力の活用方法を検討し、3つのグループごとにアイデアをまとめました。地域の資源や地形の利用や、震災前に盛んだったスポーツを通じての交流を復活させたい、などのアイデアがありました。

第5回・第6回会議

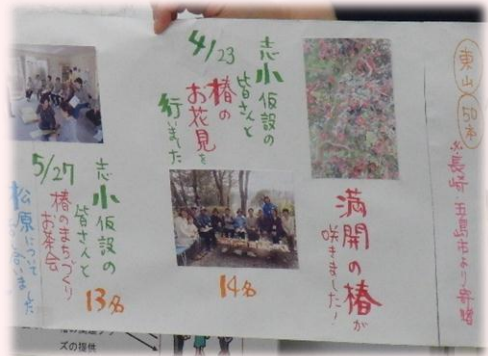
第5回・第6回会議で、町の魅力を活用するアイデアのなかから、思いが特に強いもの、町民のみんなの健康の向上など、特に切実な思いがあるものを選び、提言・要望を検討してきました。

2. 提言・要望の発表

南三陸椿物語

<背景・思い>

この物語の始まりは、この大津波の塩害で立ち枯れた杉の間に椿は自生して生き残っていた椿をまちづくりの中心にして町を甦らせたいという、あるおばあちゃんの一言から始まっています。この椿を真ん中に置いたまちづくりをすることによって、いろいろな方々がまちづくりに参加できるのではないかとということで考えました。



<提言の内容>

本当の物語にするために、仮設の集会所を回って、お母さん方の話を聞くところから始めたいと思っています。お母さん方の思い出、知識から紐解いていったお話を子供たちに伝え、子供たちに椿の種を拾う役割を担ってもらおうと思っています。

拾った種からポット苗を作るのですが、それは仮設に暮らしていて、やがてこの町に帰ろうと思っているお母さん方の長い時間を満たします。

ゆくゆくは椿の避難道をつくりたいと考えています。ここはこの高台とつながっているということがわかるように、山際に椿を植え、椿の道をつくりたいと考えています。

一連の活動をする人を椿守さんと命名し長い活動にしていこうと思っています。

交流人口を増やすことが町のテーマだと思いますが、椿を中心にした活動をしているほかの町の方々との交流をここで持ちたいと思います。

<町への要望>

町にしていきたいのは場所と情報の提供です。また、広報に協力していただければと思っています。この活動は南三陸町復興推進計画の理念である「自然と共生するまちづくり」の具体的な活動として、町民が主体性を持ち、活動するということで進めて行きたいと思っています。活動の中で椿の苗木代を捻出する工夫をしていけると考えています。例えば、この椿の葉書は、南方のお母さん達が、一生懸命自分の町に帰るため葉書をつくり、苗木代を捻出しようと頑張っているものです。

<まとめ>

この物語は昨年2月から1年間志津川中学校の仮設のみなさんとどういふふうにしようか話しをしたり、小学校に行ったり、今すぐにでも植えられる高いところ、上の山や東山に植樹したりしていました。春には、桜だけでなく椿のお花見もできるようにして、いろいろな方々と交流をきっかけにしたいと思っています。

ゆくゆくは、椿をメインにした椿山のようなところで椿油が取れたらいいと思います。町民や他の関わる方々が入って1冊の椿物語という本ができるといいと思っています。

みんなで健康グラウンドゴルフ

<背景・思い>

南三陸町の震災復興計画に「安心して暮らせるまちづくり」という項目があり、その中に「保健医療福祉のまちづくり」があります。将来のまちづくり計画の中だけでなく、そこにつながるまでの現在被災されている住民の方々の健康増進が必要だと感じています。復興計画は、将来高台に移転し、新しい町ができてそこから始まる計画ではなく、今現在も進んでいる計画だと認識しています。



また、「自然と共生するまちづくり」の項目の中に「地域コミュニティの推進」も入っています。コミュニティが崩壊しつつあるので、交流するためのひとつの方策としてこういう活動が良いのではないかと思います。この提言は、将来の住民生活だけでなく、被災して仮設に住んでいる方々、震災を免れた高台に住んでいる方々を巻き込んだ交流のテーマです。

<提言の内容>

今いる人達が体を動かす場所、コミュニティを図れる場所、交流できる場所がないという現実があり、グラウンドゴルフの大会ができる広さではなくても練習できる広さがあればいいです。

志津川地区に限定して考えてみますと、仲間との交流が今失われています。上の山緑地公園も使えなくなってしまう、(グラウンドゴルフができず)、「散歩だけで手一杯だ」、「散歩だけではつまらない」という話を聞いています。練習できる場所がほしいということです。

新しいグラウンドができるまでの2、3年の間に高齢者を中心に練習や交流をして過ごせる場所があればいいと思います。50m×30mのコースが確保できれば標準コースができるのでこの広さでいいわけです。運営資金、スポンサーに商品提供をしてもらったり、大会を開催することはいずれできればいいと思いますが、まずは地域の人達が交流できる場所を確保して欲しいです」。

<町への要望>

町に提言したいことは、工事期間を縫う様にして仮設のエリアを作っていただければありがたいということです。平成の森にはグラウンドゴルフができるような広場がありますが、志津川地区にはないことが課題になっていると思います。高齢者の方々の生きがいや交流というところを考えるとぜひ実現してほしいところをお願いします。

鮭的人材育成

<背景・思い>

南三陸町の産業の主流になっているのは鮭だと思います。鮭の赤ちゃんを放流すると2年から8年かけてこの南三陸町にまた帰ってきます。帰ってくる時鮭は顔つきも体つきも変わり川をのぼってきます。南三陸町の川を目指して帰ってきた鮭は鮭の赤ちゃんを産みます。



のぼってくる鮭の光景を私たちは子供の頃から八幡川だったり汐見川だったり汐見橋だったり、橋の上から眺めて過ごしました。のぼってくる姿だけでなく、最後に卵を産んだ後、お腹を見せて死んでいく光景も見ていたわけです。命の営みというか、循環というか知らず知らずに学んでいました。それが南三陸町に生きたものだけが深く味わえる原風景じゃないかというのが提言の土台にあります。

<提言の内容>

自然に学んでつくるのが一番たくましい人間が育つのではないかと思います。人間が育っていった、この町らしい人間が育っていくのではないかと思います。人口流出問題がありますが、それを逆手に取り、どうぞ出て行ってくださいと、しかし、たくましくなってこの町にまた戻ってきてくださいというふうな若者を送り出す大人が必要だと思います。また、帰ってきたくなる町を私たちはつくっていかねばならないと思います。その両方の意識をその活動の中で高めていけたらと思います。活動をすることによって自分たちの町に命を学べる川があるということ、自分たちの町の資産に気付くと思います。

川をのぼってくる鮭との学びですので、川に近づけるようなきっかけ作りがとても大事で、その川を町民が主体性を持ってこれから管理していかなければと思います。川に近づけるイベントや川を活かしたイベント、鮭とイクラの生態に重ねた面白いイベントなど、時期がきたら打ち出していくことも、鮭的人材育成につながるのではないかと考えています。河川を中心にまちづくりを考えている町民有志のグループがあるのでその方々を中心にネイチャーセンターの皆さんから知識をいただきながら鮭的人材が一人でも多く増えればと思います。

この町にいながらこの町の魅力がわかって立派な人材となって外に出て行くという子供たち出てくると思います。やがて自然に育まれていけたらこの町の未来に貢献できるのではないかと思います。

<町への要望>

町にはぜひ親水環境の整備、配慮をしていただければ鮭的人材育成にふさわしい川になっていくかなと思います。

復興中もスポーツ

<背景・思い>

町に願う部分が多いということで要望ということにしました。

仮設住宅での生活が長くなっていることで健康を害している人もいて、その対策に今すぐ取り組む必要があるだろうと考えました。南三陸町の中で心豊かな暮らしを続けるため、健康維持、増進を支援する必要があるということです。



仮設住宅にいてばかりだと生活不活発病もおきやすく、子供たちも体を動かす場所が欲しいです。また、高台移転してもコミュニティが継続できるような活動を、今からしなければ間に合わないのではないかと感じています。

子供からお年寄りまで一緒にできるスポーツ、交流する南三陸、震災前は町の大会があつてみんながんばっていたということがあります。男性は目標がないとなかなか一緒に集まれない。目標があり、みんなが参加できるというスポーツの魅力の魅力を全面的にかしたいと思います。

<要望の内容>

震災から3年が経ち、また3年間運動の場がなく待っているのはつらいと思います。体を動かさないと体力が衰えると思います。家の近くに、仮設の近くに運動する場所がない、グラウンドゴルフできる場所がないという話をよく聞きます。

ちょっとしたスペースがあれば集えて体を動かして互いの顔が見える、そんなつながりがもっとできていくのではないかと思います。

高齢者の方にとって、また子供にとって1年は大切な時間で夢や希望に向かって歩んでいる子供たちにも体を動かす場所と時間があつたらいいなと思います。

フットサルができるくらいの大きさの多目的な広場があればいいです。

広場に加えて、田東山でマウンテンバイクの大会を大きくして、伊里前の復興商店街からスタートするツールド南三陸を企画してみたり、志津川から入谷、御前下から大船沢、入谷をつないでウォーキングコースをつくったり、みんなでマップをつくることもしたいと考えています。

<町への要望>

町にはまず場所の確保をお願いしたいと思います。大会の運営は体育協会や推進会議のメンバーができると考えています。みんなが元気な町をつくりたいという要望です。

3. 提言書・要望書の提出と町長からのコメント

- ・町では3000本の桜プロジェクトが動いているが、提案の椿物語が進むようにしたい。
- ・グラウンドゴルフは再整備をした圃場で今年作付けできない所が提供できるか検討したい。
- ・私もまったく鮭人間(8年間外に出てもどった)なので、鮭のプロジェクトが進むように支援したい。
- ・スポーツの場の確保は正直難しい。震災直後、仮設住宅をつくる場所がなく平成の森の野球場だけ残した。サッカー場も残したかったが隣の市のグラウンドをつぶしてもらって南三陸の仮設住宅を作った経緯があるので残せなかった。



4. 復興計画推進会議の進め方

(1) 今年度の推進会議に対する感想のまとめ

1) 会議の開催日や開催時間について

今年度の平日18時から20時の開催時間が基本的に参加しやすく、現行の開催日時、時間が良いとの意見が大勢を占めた。ただ、課題として以下があげられた。

- ・2月28日、3月26日等、月末は仕事が忙しいので開催日からはずしてほしい。
- ・グループ間で意見交換をする時間がない。15分くらいなら延長しても良い。
- ・小中学生、高校生に参加してもらいたいので昼間の開催や出張開催を検討してほしい。

2) グループ会議を中心とした検討方法について

ずっとグループが固定だったので、来年度はグループを入れ替えてほしい。できれば、前期(3回)と後期(4回)を別にしてほしい。また、歌津・志津川・戸倉・入谷地区の代表が各グループに入るようにしてほしい、との意見があった。

3) 会議のテーマや検討回数について

復興計画に欠けているものなどがじっくり話し合えてよかった、という肯定的な意見が大勢を占めた。

(2) 新年度の推進会議に対するご意見

1) 新年度に取り上げてほしいテーマ

賑わいづくりやコミュニティ形成など多様な意見があげられたが、まちづくり協議会などとの役割分担をもう一度整理して、テーマを決めていく必要がある。

2) 今後の会議の進め方に対する意見、事務局から提供してほしい情報など

グループ発表は住民委員が行って、主体性をもって参加するようにしたい。やる気がある新メンバーを追加してほしい等の意見があった。